

平成 26 年度 公益財団法人ホシザキグリーン財団 事業計画

1. 「ホシザキ野生生物研究所事業」

(1) 基本的な考え方

- ・特に調査研究・情報収集発信事業を実施する拠点として位置づけるとともに、普及啓発事業への関わりをより一層強める。
- ・宍道湖グリーンパーク(ビオトープ池)と尺の内公園を附属施設として位置付けて、調査研究ならびに普及啓発事業の場としてより一層の充実を図る。
- ・特にラムサール条約登録湿地である宍道湖・中海の特性を生かした事業に取り組む。
- ・グリーンパークと宍道湖自然館ゴビウスで取り組む各事業と密接に連携する。

(2) 進め方

- ・専門的学術研究を進め、その過程で得られる知見や成果等を保存管理し、有効に活用できるように施設・体制の整備をする。
- ・調査研究の成果を常設あるいは企画展示、観察会等の普及活動に活かしていく。
- ・事業全体の独自性・効率性を高めるため、調査研究・情報収集発信の拠点として必要な設備や備品を整備するとともに、必要に応じて資料化やシステム化を図る。
- ・グリーンパークならびに尺の内公園については野生生物が生息できる場所としての機能を高めつつ、より多くの人々の利用に供する整備等の検討や計画を進める。
- ・グリーンパークやゴビウスの展示や資料作成へのより効果的な協力を図る。
- ・実習室の利用を通じ、普及啓発事業のより一層の充実に貢献する。
- ・調査研究・普及啓発事業に必要な文献や標本などの資料を保管する。
- ・各種の関係機関・団体、研究者・ナチュラリストと適宜連携をとっていく。

2. 「宍道湖グリーンパーク事業」

(1) 基本的な考え方

- ・地域に密着した施設として、西日本有数の水鳥飛来地でありラムサール条約湿地となった宍道湖・中海の特性を生かした環境学習・啓発の機能強化に努める。
- ・園内の植栽や周辺植生の特色を活かしながら、野鳥や昆虫などの野生生物が生息し、来園者が散策や学習をしてみたいと感じる魅力ある管理に努め、整備した環境を調査研究や普及啓発事業に結びつける。
- ・自然環境や野生動植物の学習や保護活動などを通して、地域住民、研究者、ナチュラリストが交流できる場となるよう努める。
- ・自然環境保護に対する人々の学習を支援できるよう整備し充実を図る。
- ・特に宍道湖自然館ゴビウスとの連携を強める。

(2) 進め方

- ・自然観察会や企画展などを通じ、地域の人たちへの自然保護意識の普及啓発の場となるよう努

める。

- ・環境学習などを希望する団体対応の充実を図る。
- ・来園者の満足度を高めるために、野鳥観察舎において自然と親しむきっかけづくりとなる展示物などの設備や備品を充実し、グリーンパークの利用促進に努める。
- ・園内全体を対象に、解説板の設置などの普及啓発機能を高める整備を進める。
- ・園内において鳥類や昆虫類などをはじめとした野生動植物の生息環境をさらに充実させるための整備や管理を検討し実行する。
- ・バードサンクチュアリにあるカワセミの人工営巣壁や水場の機能充実に努め、野生動植物の生息生育環境として効果的な機能の付加を検討する。
- ・ビオトープ池の機能向上のために実施した整備環境を維持し、環境の多様性を保つ管理をしながら、その効果の検証と活用に努める。
- ・パークボランティアの活動の輪を広げ、さらに交流が深まる場とする。
- ・研究所とともに園内やビオトープ池、周辺に生息する鳥類や昆虫類、植物などの効率的なモニタリングに努め、自然情報の収集と発信を行える場とする。
- ・地権者の理解を得て水田に水を張り「白鳥の採食場」としての環境整備を行うとともに、生物調査や自然観察会を実施する。
- ・来園者に楽しんでいただくことを目的とする「ペンギンミュージアム」を適切に維持管理する。

3. 「ふるさと尺の内公園事業」

(1) 基本的な考え方

- ・里山環境にある公園として、野生生物の生息環境を整備しながら、人と自然のふれあいの場を提供できる公園づくりと活用を図る。
- ・野生生物の生息や普及啓発面にも配慮して効果的な管理を行い、必要な整備を実施する。
- ・地元小学校、幼稚園、保育園など地域の住民がより利用しやすくなるように整備と活用を図る。

(2) 進め方

- ・メイン園路の整備や小園路の整理を進め、隣接する道の駅からも園内に向かいやすくするなど、利用しやすい環境を整えるとともに、ベンチや東屋を設置するなどして利便性を向上する。
- ・里山で見られる樹木や生き物などを観察できる整備を進めることで公園の魅力を向上する。
- ・オニバスなどの希少植物や県内を代表する植物などの保護増殖の検討の場として活用する。
- ・池や小川を在来の生物が生息しやすい環境になるよう整備を進める。
- ・普及啓発のための案内板、解説板、樹名板を適宜追加していく。
- ・自然観察会などを実施し、自然保護につながる普及啓発の場としていく。
- ・後背地の森林も含め、昆虫や鳥類、植物などの調査を継続しながら環境整備を実施する。

4. 「調査研究事業」

(1) 基本的な考え方

- ・県内の希少な野生動植物の分布、生態、減少要因などを研究する。

- ・ 宍道湖や中海など県東部地域の自然特性を活かしたテーマに重点を置く。
- ・ 宍道湖グリーンパーク（ビオトープ池）やふるさと尺の内公園など施設の特色を生かした調査や、それぞれの施設の整備や管理に生かすことができるような調査研究にも取り組む。
- ・ 宍道湖、里山、水辺環境、希少種保護、生物多様性など多くのテーマがある中、限られた時間、設備、予算、スタッフの下で効率よく研究を進展させるため、職員の自主研究のほかに、大学や博物館との連携をはじめ、第一線研究者への委託研究、地域の研究者・ナチュラリストとの共同研究を実施していくほか、客員研究員制度を活用する。
- ・ 研究テーマの選択にあたっては、地域性、重要性、緊急性、発展性を常に考慮していく。

(2) 進め方

◎職員自主研究

①鳥類の環境利用特性の研究

宍道湖西岸域を中心に鳥類の生息状況を把握し、湖面、河口、水田、ヨシ原、草地、河畔林などの環境要素の利用特性について研究する。

②マガン・ヒシクイ・コハクチョウの日周行動特性の研究

宍道湖西岸域に渡来するこれら鳥類のおかれていた現状を把握するため、採食場やねぐら、休息場等の分布状況などの基礎データを蓄積し、日周行動の特性を解析する。

③特定鳥類の生息状況調査

レッドデータブック掲載種や島根県内において繁殖等の生息情報が不足している種、ソウシチョウやカワウなど生息の動向が注目される種を対象に生息状況の調査や情報収集を行う。

④ヒシクイ・ハクチョウ類のビルパターン解析

宍道湖西岸に渡来するヒシクイとコハクチョウのビルパターンの記録をとり、亜種や個体識別の情報として蓄積し、解析する。

⑤鳥類生息情報の集積

島根県産鳥類目録や地域別の鳥類目録作成のための基礎的な情報収集のほか、レッドデータブック掲載種などの鳥類の生息情報を収集し、データベース化を図る。

⑥ネクイハムシ亜科の進化生物学的研究

ネクイハムシ亜科甲虫類の系統進化について、DNA解析も含めて研究を行う。日本列島のネクイハムシ亜科の進化を探るには日本の周辺地域も研究フィールドとする必要があり、極東ロシア、韓国、中国、東南アジア、北アメリカなどの種についても検討する。

⑦日本産水生甲虫類の分類学的研究

ゲンゴロウ類・ガムシ類・ドロムシ類などの水生甲虫類の記載・分類を行う。特に不明な点が多い幼生期について野外調査や飼育、分子系統によって解明する。

⑧島根県の止水および流水域に生息する水生昆虫類の保全生物学的研究

島根県の湿地や池、河川に生息する昆虫類の分布状況や生態について、特に絶滅危惧種を対象に調査を行う。

⑨山陰の海岸や砂丘に生息する昆虫類や節足動物に関する研究

海浜や岩礁といった特殊な環境や海岸に発達する砂丘に生息する昆虫類について、特に絶滅危惧種を対象に調査を行う。

⑩島根県産昆虫目録を作成するための基礎調査

標本や文献記録の整理を行う。特に隠岐諸島の昆虫目録の作成、コウチュウ目やアミメカゲロウ目など特定の分類群の分布調査を行う。

⑪島根県産植物の調査ならびに染色体観察

植物相把握整理のための標本調査と現地調査を染色体観察を交えて進める。ラショウモンカズラや環宍道湖産アオキなどの特定種について染色体研究を進める。

⑫特定植物種の産地や形態に関する調査と染色体観察

ラショウモンカズラや環宍道湖産アオキなどの特定の種について現地調査や形態計測、染色体観察などにより実態を解明する。

⑬オニバスの保護増殖に係る生育調査

尺の内公園で保護増殖を試みているオニバスの生育に関する調査研究を進める。

⑭島根県の淡水・汽水生物の調査

淡水や汽水に生息する甲殻類や貝類などの生息状況について調査を進める。

⑮ビオトープ池の生物調査

ビオトープ池とその周辺の田んぼの鳥類や水生生物、植物を継続的に調査し、ビオトープ池における生物種の多様性の在り方について検討するとともに、今後の維持管理に役立てる。

⑯尺の内公園の生物調査

公園および周囲の森林の鳥類や昆虫、植物を継続的に調査し、尺の内公園における生物種多様性のありかたと今後の維持管理に役立てる。昆虫や鳥類以外の動物も調査対象に含める。

⑰グリーンパーク周辺の鳥類定量カウント調査

宍道湖グリーンパーク周辺を環境別に7つのサイトにわけ、出現種や個体数の変動などを把握することで、鳥類の生息環境保全のための基礎的資料を得る。

⑱グリーンパークの生物調査

グリーンパークや宍道湖岸に生息する昆虫類などの調査を行う。また、多自然型湖岸堤(ワンド)で発生するナゴヤサナエの個体数と消長を調査し、生息環境保全のための基礎的資料を得る。

◎委託研究

①ガン・カモ・ハクチョウ類個体数調査(継続)

宍道湖・中海やその周辺に飛来するカモ科鳥類のカウント調査を行う。

②中海周辺におけるガン・ハクチョウ類の採食分布調査(継続)

宍道湖周辺のガン・ハクチョウ類の採食分布調査と同日実施することで、宍道湖と中海全体での動態を把握する。

③日本産ヒメドロムシ科の系統解析(継続)

島根県内をはじめ日本各地のヒメドロムシ科について分子系統解析を行い、遺伝的分化の程度や翅多型などの多様性について検討する。

④山陰地方の希少昆虫に関する基礎調査(新規)

レッドデータブック掲載種、特に情報不足とされる昆虫類について調査を行い、今後の改訂のための基礎資料とする。

⑤島根県内の直翅類の生息状況に関する基礎調査(継続)

絶滅危惧種や外来種をはじめ直翅類全般について情報を収集し、生息状況を解明する。

⑥島根県の多足類調査(新規)

島根県での生息状況について不明な点の多い多足類について情報を収集し、現状を把握した上で、課題や問題点について整理をする。

⑦隠岐諸島における昆虫類の生態学的研究（新規）

隠岐独自の生態系について、昆虫を材料として生態学的な検討を行い、その特色を解明する。

⑧島根県のアブラムシ相調査（継続）

島根県のアブラムシ相について基礎的な調査を行い、保全上の重要種の生息状況を検討する。

⑨宍道湖における突発的な水草の分布拡大に関する原因の解明（継続）

宍道湖で突発的に発生する水草について、出現種、群集構造、バイオマス等の定量化を行い、その原因を検討する。

⑩隠岐島前における鳥類相調査（継続）

隠岐諸島における鳥類相把握のため、先ず島前を中心とした現地調査と情報収集を行う。

⑪島根県東部におけるゴギの調査（継続）

絶滅危惧種であるゴギの生息実態調査を島根県東部で行い、現状を把握して保全について検討を行う。

⑫島根県のカイガラムシ相調査（継続）

島根県内での生息情報が少ないカイガラムシについて調査を行い、希少種や外来種の生息状況を調べる。

◎環境修復に関する連携事業

宍道湖・中海ならびに県内の水域に生息する野生生物に対して環境整備や調査研究事業を外部と共同で実施する。また、斐伊川水系における魚類等の生態研究を通して宍道湖や中海の環境特性を探る。

◎研究報告書の発行

- ・研究成果の公表（情報発信）を目的にして、平成27年3月に第18号を予定する（B5版、300頁、1000部発行）。
- ・研究報告特別号を随時発刊する（第12～14号を想定）。
- ・全国の博物館、大学、研究所、学会、自然保護団体などの関連機関および島根県の行政機関、関連団体、公立高校、公立図書館などに寄贈する（雑誌交換）。

5. 「普及啓発事業」

(1) 基本的な考え方

- ・普及啓発事業は、子どもや地域の人々に自然の仕組みや大切さ、花や鳥や虫がどう暮らしとかわっているのかを楽しみながら学ぶ基本的な事業ととらえ、重点事業に位置づける。
- ・地域の自然特性を活かしたテーマを中心に取り組み、ラムサール条約湿地である宍道湖・中海の自然や生物のテーマに重点を置く。
- ・宍道湖グリーンパーク（ビオトープ池）やふるさと尺の内公園など財団が整備してきた施設とその周辺環境の特色を生かしたテーマに重点を置く。
- ・実施する意図を的確に捉えつつ、参加する側がわかりやすく楽しめる内容にする。

- ・ 調査研究で得られた知見を取り入れるなど学術的な内容も盛り込んでいく。

(2) 進め方

①自然観察会などの開催

地域住民や小中学生を対象に、鳥類や昆虫類、魚類、植物などのほか、子どもにも親しみやすい題材をとりあげ、自然保護意識啓発のための季節に合わせたプログラムを組んで開催する。

宍道湖グリーンパーク

- ・ 定例観察会として年間12回（毎月）開催。

ふるさと尺の内公園

- ・ 定例観察会として年間5回（4-8月）開催。

グリーンパーク&ゴビウスKODOMOラムサール探偵団

- ・ 会員として登録し、連続した体験活動を年間5回（5-11月）実施。

②企画展の開催

宍道湖グリーンパーク

- ・ 4-6月「教え！消えゆく生きものたち 改訂しまねレッドデータブック水辺の生きもの編」
※島根県立三瓶自然館とリレー展形式とし、県立宍道湖自然館ゴビウスと共催。
- ・ 7-8月「なぞなぞ・くいず で だいはっけん（仮題）」。
- ・ 12-1月「生きものの冬越しスタイルあれこれ（仮題）」。

③展示更新

- ・ グリーンパーク（観察舎）において、マガンやコハクチョウの渡来日予想企画や、宍道湖・中海のラムサール条約湿地登録日あるいは世界湿地の日などをテーマにして、ある程度まとまった展示更新を行う（コーナー展示）。
- ・ グリーンパークの観察舎やゴビウス館内ガラスケースの展示について、季節やフィールドの変化にあわせた更新を適時行い、来園者の興味関心を引くように管理する。

④研修会・シンポジウムなど

- ・ 研究所において宍道湖学習講座など地域の自然や生きものをテーマにした研修会、講演会などを開催するほか、研究所として調査研究成果を発表する報告会を開催する。

⑤グリーンパーク利用促進のための企画

- ・ 来園者が野生生物や自然観察などにより興味関心を持つきっかけとなるようなリーフレットなどを作成し配布する。
- ・ 来園者向けの特別イベントとして年間4回を計画（ゴールデンウィーク、6月のグリーンパーク開園記念、11月のラムサール条約登録記念、2月の世界湿地の日）。
- ・ 利用促進が自然とふれあう機会を増やすことにつながるという趣旨から、年始にプレゼント企画を実施するなど、適時適度に計画する。

⑥パークボランティア制度

- ・ グリーンパークのボランティアの方々とのコミュニケーションを深め、観察会のプログラム材料や参加者に興味づけるノウハウなどの研修会を必要に応じて実施し、ボランティア活動をとおしてより充実感のある活動の場の提供を検討する。

⑦ニュースレターの発行

- ・ 来園者や観察会参加者、財団の活動に関心を持つ方々に自然情報や財団の活動をわかりやす

くつたえるとともに、記録として残すことができるニュースレター（年4回、4ページ程度）を発行する。

- ・ 全国の自然保護団体や博物館などとの交流や情報交換をするために雑誌交換にも供する。
- ・ グリーンパークのボランティア向けの連絡誌（年4回）を発行する。

⑧ホームページの運用

- ・ 部分的な更新によるフィールド情報やイベント情報などタイムリーな情報発信をより一層充実するとともに、財団の事業や施設あるいは自然や野生生物に対する興味を引き出せるように検討を重ねていく。

⑨普及啓発資料などの発行

- ・ グリーンパークや尺の内公園においては、来園者が野生生物や自然観察などにより興味関心を持ち学習に役立つリーフレットなどを作成して配付する。
- ・ 県内の野生生物や企画展テーマの生物などを紹介するカレンダーやカードなどを作成し、各種企画等と連動して配付する。

⑩広報告知関係

- ・ 各種普及啓発に関する企画の告知宣伝や、財団の活動や施設の広報などを効果的な実施を検討し、より広く不特定多数の参加や利用に結びつける。
- ・ 要覧やパンフレットなどの配付資料類や、施設内外の案内看板などを適正に維持管理する。

⑪公共サービス

普及教育ではないが、ホシザキグリーン財団が社会的に認知されてきた証しとして、次のようなサービス業務がある。他業務との兼ね合いがあるが、いずれも業務に支障のない範囲で今後とも対応する。

「公的機関からの審議会委員就任要請」

「公的団体からの講師派遣の要請」

「マスコミからの各種の問い合わせ、取材対応」。

6. 「情報収集発信事業」

(1) 基本的な考え方

- ・ 研究所としてもっとも重要な「標本」「文献」「写真」「映像」「データ」などの「知的資産」を収集、整理し、適切に保管しながら、展示や情報提供などへの活用を図る。
- ・ 調査研究や普及啓発事業を展開する上で、各種情報の収集や整理、発信は欠かすことができないものであり、より一層これらの事業と結びつけていく。
- ・ 基本的な文献と標本を揃え、情報の集積とデータベース化を進める。

(2) 進め方

①標本の収集、整理、保存

- ・ 研究用の標本を収集、整理、保存する。
- ・ 普及教育活動に必要な標本をそろえる。

②文献の収集、整理、保管

- ・ 研究所に必要な文献資料を入手し、データベースに登録する。

- ・ 入手にあたっては、各地の研究機関、博物館、大学との雑誌交換（ニューズレターや研究報告書など）によって収集するほか、必要な文献は計画的に購入する。

③映像・写真の収集、整理、保管

- ・ 研究所に必要な映像・写真を収集し、保管する。

④鳥類等の観察情報のデータベース化

- ・ グリーンパークに寄せられる鳥類の観察情報やレッドデータブック掲載種など希少性の高い生物などの生息情報のデータベース化を図る。

⑤学会への加入、参加

- ・ 関連学会に加入し、学会や会誌をはじめ全国の研究者との交流等から専門性を高め、より充実した事業の展開に結びつける。

⑨収蔵資料の整理と活用

- ・ 文献や標本などを整理し、データベース化などの作業を進める。

7. 「地方公共団体からの受託事業」

地方公共団体からの受託業務は、財団の基本理念に適合するもの、社会貢献度が高いと考えられるものについては、受託していくものとする。なお、平成 17 年度より指定管理者制度の対象となった宍道湖自然館ゴビウスの管理運営業務も同様に考え、同施設の事業計画に基づき、さらに充実・発展するように取り組んでいく。

[参考] 下記は平成 25 年度受託実績。平成 26 年度もほぼ同程度の受託事業が想定される。

①宍道湖自然館ゴビウスの管理運営事業

島根県水産課からの委託業務（指定管理者）。

②鳥類生息調査業務

島根県森林整備課からの委託調査。

③隠岐ジオパーク生物多様性保全推進事業調査業務

島根県自然環境課からの委託業務。

④しまねレッドデータブック改訂原稿作成等業務（鳥類等）

島根県自然環境課からの委託業務。

⑤出雲市自然環境調査研究

出雲市環境政策課からの委託調査。

⑥斐伊川外水辺環境調査

国交省出雲河川事務所からの委託業務。

⑦国指定中海鳥獣保護区更新に係る鳥類調査業務

中国四国地方環境事務所からの委託業務。

平成26年度 宍道湖グリーンパーク・ふるさと尺の内公園の定例観察会

◎宍道湖グリーンパーク 「定例自然観察会」

開催日	タイトル(仮)	案内内容	時間	定員
4/13(日)	春の野鳥観察を楽しもう	宍道湖で冬を過ごしていたカモのたちもまだまだ見られます。夏の鳥や、旅の途中の鳥たちにも会えるかも！初心者向けの野鳥観察です。	10:00~12:00	20名
5/11(日)	草花を観察してあそぼう	園内を散歩しながら、クイズを解いたり、草花あそびを楽しみましょう。みんなで春の発見をしませんか？	10:00~12:00	20名
6/15(日)	小さなプランクトンを観察しよう	水の中の小さなプランクトンにスポットをあてます。その姿を楽しく観察しながら自然のしくみについてかんがえてみましょう。	10:00~12:00	20名
7/13(日)	トンボをみつけて観察しよう	大きなトンボ、スリムなトンボ、しぶい(!?)トンボ…。いろいろなトンボを探してみましょう。もしかしたらナゴヤサナエの羽化も観察できるかも！	10:00~12:00	20名
8/17(日)	ハチを観察してみよう	ハチはこわい生きもの？あぶない生きもの!?身近なハチがどんな生きものでどんな生活をしているのか観察してみましょう。	10:00~12:00	20名
9/7(日)	ビオトープ池の生きものを観察しよう	ビオトープ池で生きものをつかまえてじっくり観察してみましょう。	10:00~12:00	20名
10/5(日)	バッタやコオロギを観察しよう	草や地面にうまくカモフラージュしているバッタやコオロギたち、見つけられるかな？	13:30~15:30 (10月から午後)	20名
11/9(日)	草の実を観察してあそぼう	おもしろいかたち、かわったかたち、いろいろなくつつき虫をつかまえて(?)観察して、あそぼう。	13:30~15:30	20名
12/14(日)	落葉痕ウォッチングと小枝工作	葉っぱを落とした木の枝を観察してみると…おもしろい発見があるかも!!小枝を使った工作も楽しみませんか？	13:30~15:30	20名
1/18(日)	「とりかるた」を作ろう	寒くても、室内でバードウォッチング!鳥のことが好きになる!?鳥かるたを作って楽しみましょう。	13:30~15:30	20名
2/1(日)	こんにちは!冬のいきものたち	寒い冬、生きものたちはどこで、どんな風に過ごしているのでしょうか?私たちも寒さに負けず、冬ならではの生きものの様子を見に出かけてみましょう!	13:30~15:30	20名
3/8(日)	カモウォッチングを楽しもう	宍道湖を賑わしていた冬鳥たちの姿もまだまだ見られます。ゆっくり、バードウォッチングをたのしみましょう。	13:30~15:30	20名

◎ふるさと尺の内公園 「定例自然観察会」

開催日	タイトル(仮)	案内内容	時間	定員
4/20(日)	春の里山花散歩 ~これからはじめる大人の植物観察講座~	あたたかくなり、春の里山は花や芽吹きがたくさん見られます。散歩をしながら、里山の植物見分け方を学びましょう。	9:45~11:45	20名
5/18(日)	これからはじめよう! 親子でバードウォッチング	公園にいる鳥を観察しながらクイズを解きましょう。バードウォッチングを家族の話題にしませんか?初心者向けのプログラムです。	8:00~10:00	20名
6/14(土)	夜のホタルの観察会	尺の内公園ではゲンジボタルとヘイケボタルが幻想的な光で飛び交います。ホタルの説明を聞きながら観察してみませんか?	19:15~20:30	40名
7/27(日)	わくわく昆虫観察会	尺の内公園は夏本番です。セミやトンボを探ったり、樹液に集まる昆虫を探したりしましょう。	10:00~12:00	20名
8/31(日)	わくわく昆虫観察会	まだまだ暑い時期ですが、バッタやカマキリなど秋の昆虫たちにも出会えます。セミやトンボもたくさんいるよ。	10:00~12:00	20名